

## 審 議 結 果

審議会等名称：第128回神奈川県総合計画審議会

開催日時：令和元年6月6日（木）15：00～16：15

開催場所：神奈川県庁新庁舎8階 議会大会議室

出席者：◎清家篤、○斎藤聖美、金子勝、河野英子、小林隆、大崎厚郎、柏木教一、篠原正治、丸山善弘、能登ゆか、平田美智子、湯川裕司、いそもと桂太郎、曾我部久美子、武田翔、永田磨梨奈、中村武人、西村くにご、柳瀬吉助〔計19名〕（順不同）  
（◎会長、○副会長）

次回開催予定日：未定

問合せ先：政策局政策部総合政策課計画グループ 石川（聖）

電話番号045-210-3064（直通） ファックス番号045-210-8819

---

審議経過（議事録）：（事務局が委員数30名に対し、この時点で19名の出席を確認し、半数を超えるため審議会が成立する旨を発言）

### 1 開会

○ 清家会長：ただいまから第128回神奈川県総合計画審議会を開会いたします。

議事に入る前に、この度、人事異動により事務局が代わっているようですので、事務局を代表して政策局長から職員の方の紹介をお願いします。

○ 高澤政策局長：政策局長の高澤でございます。6月1日付けで就任いたしました。どうぞよろしくお願ひいたします。本日はお忙しい中、神奈川県総合計画審議会にご出席いただきまして、ありがとうございます。私の方から事務局員を紹介させていただきます。

（事務局職員の紹介）

### 2 議事

議題1 「かながわランドデザイン 第3期実施計画（案）」について

○ 清家会長：本日の議題は「かながわランドデザイン 第3期実施計画（案）」についてです。「かながわランドデザイン 第3期実施計画（素案）」につきましては、5月22日の当審議会におきまして、非常に熱心なご議論をいただきました。その後、事務局で審議会等での議論を踏まえた修正を行いました。また、県民の皆様や市町村等からも広く意見をいただき、それらの意見も踏まえまして「第3期実施計画（案）」を作成しましたので、最終案の取りまとめに向けてご審議をお願いいたします。なお、この実施計画（案）につきましては、5月30日に計画推進評価部会・計画策定専門部会でご議論をいただいております。審議に先立ち、まず事務局から資料の説明をしていただき、その後、部会での検討結果について報告させていただきます。佐藤課長、よろしく申し上げます。

（事務局から資料の説明）

○ 佐藤総合政策課長：続いて、5月30日の部会での検討結果について、本日部会長及び副部会長がご欠席

のため、事務局からご説明いたします。部会では、ただいまご説明した「第3期実施計画（案）」についてご審議いただきました。意見と対応については参考資料2にまとめておりますが、こちら資料1に沿ってご説明いたします。資料1の2ページをご覧ください。計画書について、「プロジェクト編と主要施策編との整合性がわかりにくいので計画書同士の関連性をわかりやすく示してほしい。」というご意見をいただきました。そこで、2ページの一番下に、「基本構想」と「第3期実施計画」の関係、「プロジェクト編」と「主要施策・計画推進編」の関係を示す図を記載しました。次に、69ページをご覧ください。SDGsの記載について、「ESG投資にみられるようにSDGsを契機とした新たな投資などにより、経済の活性化につながる側面も重要である。」というご意見をいただきました。そこで、【SDGs達成に向けた視点】として、「世界的なESG投資拡大の潮流を踏まえ、社会的課題の解決に取り組む事業の社会的効果を「見える化」する仕組みを構築し、SDGsの達成につながる社会的投資を促進します。」という記載を追加しました。次に、70・71ページをお開きください。SDGsについて、「プロジェクトとSDGsとの関係」のページを、「SDGs推進に向けた主な取組み」のページよりも前に配置した方が、冊子全体の構成として分かりやすいというご意見をいただきました。この部分は、先ほどご説明したとおり、既に、そのような配置になっていますが、部会の時点では、「プロジェクトとSDGsとの関係」のページが、「SDGs推進に向けた主な取組み」のページの後に配置されていたため、出された意見です。これについては、お手元の資料のとおり、掲載順を入れ替える対応をいたしております。次に、72ページをご覧ください。こちらには「SDGs推進に向けた主な取組み」を記載しておりますが、「SDGsで始まり、SDGsで終わっていて分かりにくい。」というご意見をいただきました。そこで、欄外に「本表では、一番左の列に「県の主な取組み」が直接関連するゴールを掲げ、「県の主な取組み」の右側に関連するゴールを掲載することで、複数のゴールに関連することを示しております。」と注釈を付記しました。次に、82ページをお開きください。「ともに生きる社会かながわの実現」の1行目に記載があった「津久井やまゆり園事件」という表現について、プロジェクト4「障がい児・者」の前文（18ページ）の表現に合わせられないか。」というご意見をいただきました。そこで、プロジェクト4「障がい児・者」の前文と表現を合わせ、「2016年7月に県立津久井やまゆり園で発生した痛ましい事件は、」と記載を修正しました。次に、99ページをお開きください。指標とKPIについて、「指標・KPIの説明は凡例だけでは不十分ではないか。99ページでも指標とKPIの説明をしてはどうか。」というご意見をいただきました。そこで、99ページでも凡例と同様に、指標とKPIについての説明を記載しました。また、「指標とKPIの設定の考え方について、もう少し説明が必要である。」というご意見をいただきました。そこで、100ページ以降に記載している指標とKPIの「設定の考え方」について、全体的に記載を充実しました。その他、計画全体に関して、紙面で表現することに限界があるのではないかと、ホームページも有効に活用できるよう、工夫していく必要がある、ですとか、誰を対象にした計画なのかを改めて考えて計画書を作成すべきである、詳しすぎる文章というより、分かりやすい表現の方が重要ではないか、というご意見がございました。部会での検討結果については以上です。事務局からの説明は以上です。

- **清家会長**：ありがとうございました。それでは、ただいまの報告を踏まえて審議に入りたいと思います。どなたからでも結構ですので、ご質問、ご発言のある方は挙手をお願いします。
- **斉藤副会長**：参考資料3の意見数のところですが、906件というのは前回よりもかなり多い意見数だと思います。前回の意見数を教えてください。このような性格のパブコメでこのような多くの意見が集まるということはあまりないと思うのですが、いかがでしょうか。
- **池田政策部長**：いわゆる計画を策定した際のパブコメについては、第1期計画の際は1,072件、第2期計画の際は1,135件、今回が県民の意見のみですと876件になります。市町村からもご意見をいただいておりますので、そちらをあわせると合計で906件となります。いま申し上げた1,072件、1,135件は市町村の意見を除いた県民の意見ということです。評価の際のパブコメは確かに件数が少なかったのですが、計画

の策定時は多くのご意見が集まります。今回は前回と同じ期間を取っているのですが、ご承知のとおり10日間ゴールデンウィークで休みが入ってしまったため、資料に記載のとおり鉄道駅に置いたり、ゴールデンウィークには県庁舎の公開日がありまして、県庁舎の前で国際パレードをやる日もあって県庁舎の方へもたくさんお客さんが来ていただいたりして、そちらの会場でも概要版をお配りしたのですが、前回の第2期計画の際よりは少ない件数となっています。

- **清家会長**：ありがとうございました。金子委員、どうぞ。
- **金子委員**：柱Ⅰ「健康長寿」のところにプロジェクトの「障がい児・者」が位置付けられているのですが、地域包括ケアという高齢者の考え方の延長でヨーロッパ的に考えれば貧困対策や障がい者の問題も同時に地域で解決していくという流れでは分かるのですが、病気か病気でないかという概念で分けられているのではないかと誤解されないかと危惧しています。プロジェクトの「障がい児・者」は先ほどの事務局の説明の際にあったLGBTではないですが、障がい者の問題や障がい児の問題へ雇用の問題が入っていて、社会的な相互理解を促すという記述もあるので、柱Ⅳ「ひとのチカラ」に近接しているような性格があります。受け取る人にとっては非常にセンシティブな問題が孕まれていると思うので、分類として柱Ⅰ「健康長寿」にプロジェクトの「障がい児・者」が位置付けられていて、その中で雇用についても触れられているという流れがしっくりくるのかなと心配を持ちました。逆に言うと、男女共同参画とか、ジェンダーの問題、障がいの問題、人種の問題、いろいろな問題をそういう社会的なダイバーシティの問題として考えるという意味ですと、柱Ⅳ「ひとのチカラ」に位置付ける方が適切ではないでしょうか。柱Ⅰ「健康長寿」に位置付けるとしても、注釈を入れるなどの配慮があったほうが気を悪くされる方も少なくなるのではないかなというのが私の感じたところです。もう1点だけ言うと、これはいろいろなところに分類せざるを得ないので仕方がないのですが、柱Ⅱ「経済のエンジン」にプロジェクトの「農林水産」が入っていて、産業として農林水産業を考えるとこういう指標の見方は良いと思いますが、コミュニティやSDGsとかそういうものと関連付けていくとすると、この農林水産は自然や環境とか、地域の都市と農村の新しい交流の在り方とか都市型農業と交流の在り方といった、単純に他の、例えば東北の農業と違って神奈川のようなところで過疎地帯ができて、農村が衰退していくのを対策するとすれば、都市に近接しているメリットを使いながら、子供がそういうところに行ったりして、新しい都市型農業の在り方みたいなものを追求していくというように考えると、柱Ⅱ「経済のエンジン」だけではなくて柱Ⅴ「まちづくり」にも関連するように思います。政策をある狭い範囲で位置付けて指標をそれだけ取ってしまうと、他の発展の芽みたいなものが逆に阻害されてしまうような面を感じるような状況です。意見ですので、すべてを反映しなくてもよいのですが、そうした配慮があってもよいのではないかなと思います。
- **清家会長**：ありがとうございました。ただいまご意見ありましたけれども、事務局から何かありますか。
- **池田政策部長**：「障がい児・者」のプロジェクトを柱Ⅰ「健康長寿」に位置付けることについてですが、第3期計画では、第2期計画と同様にプロジェクトの柱というのは、健康長寿、経済のエンジン、安全・安心、ひとのチカラ、まちづくりとこの5つの柱を第2期計画と同様に位置付けておりまして、プロジェクト4「障がい児・者」につきましては、第2期計画につきましても「障がい者福祉」という名称ではございますけれども、プロジェクトを健康長寿の柱に位置付けていたような状況でございます。第3期計画におきましても健康長寿の柱は、ご意見はあろうかと思えますけれども、誰もが笑って生き生きと暮らし、健康で長生きできる神奈川を実現するというのが、基本構想のところでもそういった方向性が「いのち輝くマグネット神奈川」を実現するという基本理念がございますので、健康で長生きできる神奈川の実現ということはプロジェクト4「障がい児・者」のプロジェクトにも通じるというように考えてございまして、今回位置付けとしては第2期計画と変わらない形で、1つ目の柱の健康長寿に入れさせていただいているということでございます。それと農業の関係のお話をいただきましたが、確かに金子委員のおっしゃ

るとおり今は産業の観点で、農林水産業のところを位置付けてございますが、産業化を含めて何をやっていくかということでございますので、県としても柱Ⅱ「経済のエンジン」というところで位置付けさせていただいておりますが、例えば、プロジェクト21「自然」に里地里山の保全の関係も記載させていただいておりますし、また、プロジェクト18「地域活性化」のところで、関係人口に着目して、地域に人を呼び込もうというような神奈川らしい都市に近接したまちということで、ボランティア活動や農業体験を行っていただくという項目を記載させていただいているところでございます。プロジェクトを串刺した神奈川の戦略に「地方創生の推進」がございまして。そちらの中でも、地域の特性を生かした農業などを工夫しながら地域の活性化や移住促進を図っていくという表現を加えさせていただいているところでございます。また、129ページの「プロジェクトと主要施策の関係」のプロジェクト22「環境」について、関連する主要施策に「農林水産業の経営の高度化と安定化の促進」を位置付けており、主要施策との関係の整理では、このようにさせていただいているところでございます。

- **金子委員**：過去の計画がそうだったから今回もそのようにするというのは、障がい者のところは、少し違うという気がします。LGBTの問題もそうですけれども、多様性に対する考え方が大きく変化してきているので、ここに分類していてもよいですが、他が医療関係や介護、福祉関係の指標であるのに、ここだけ雇用や理解というのが出てきており、内容は障がい者向けになっていますが、分類と齟齬が生じている部分が出てきていますので、分類を変えるということではなくて、柱Ⅳとも非常に関わっているダイバーシティの問題が新しく出てきていますので、それも加味し、誤解を受けないように、新しいときにもう少しわかりやすく、柱Ⅳと関連付けた文章を入れた方がよいのではないかという意見です。
- **清家会長**：それでは池田政策部長のお話でもいろいろなページに関連しているということでございましたので、可能な限りそれが状況的に分かるように記述ができれば、そのように修文するというところでよろしいですか。
- **金子委員**：はい、結構です。
- **池田政策部長**：検討させていただきます。
- **小林委員**：69ページに気になったところがあります。バックカスティングはとても大事な考え方だと思います。未来を見据え、現在の政策を考えるというのは、とても良い手法だと思いますので、これを推進していくことはとても大事な事ですが、一般の方も含めてSDGsが17の項目に分かれて、それぞれの関係性というのが分かりにくいと思います。個別の指標だけ捉えていくと、例えば、経済政策の場合は、経済政策の効果を高めようとするれば、お金持ち寄りの政策を展開してしまうことになることがよくありますけれども、できれば、SDGsの相互関係を評価の中に取り入れるといったようなことを、少し加えておいてはどうかと思います。先ほどのように表にすると、いろいろなところに○が付いて、それぞれが本当は相互関係を持っているにもかかわらず、単独の指標、KPIだけで評価するような結果になってしまう恐れがあると思います。最近Tableau（タブロー）というような多様なデータをクロスさせて分析する、視覚化するというツールがありますが、そういうものを使えば、ある指標とある指標がどういう関係性にあるのか、ということが比較的示しやすくなってくると思いますので、そのあたりに少し配慮した記述があるとよいと思います。それに関連して、70～71ページに○が付いた表がありますが、この○が相互にどういう関係にあるのか分かりにくいように感じます。それを踏まえた分析をされるとよいのではないのでしょうか。また、91ページですが、ESG投資は分かりにくい用語だと思うので少し解説が必要だと思います。ESGというものは連携して評価しないと、これからのSociety5.0の社会は評価しにくくなってくると思います。ある政策をやめようと思ったときにそれをやめて大丈夫なのかどうかということ、より考えなくてはいけなくなるということです。例えばAmazonがAmazon Goというスーパーマーケットを作ってい

ますが、Society5.0を推進しようとするレジの無いスーパーが一般化していくことも考えられ、そうすると雇用が減ってしまうのではないかという議論があって、なかなか相互に進まないという状況があります。スーパーを減らしても他のところで雇用が拡大するというような関係性を示しながら総合計画を評価していく必要があると思いますので、ぜひそういう視点を見える化の記述のところに記載していくとよいと思います。同じ91ページですが、ESGもとても重要だと思うのですが、2期計画の時も申し上げましたが、行政と予算との関係もとても大切なことなので、予算も指標に含めてどのように投資をしていくのかということも、十分に配慮するといったようなことだと思いますが、少し記述していかれるともっと良くなるのではないかと思います。

- **清家会長**：ありがとうございます。これについては事務局いかがでしょうか。
- **池田政策部長**：SDGsに関しては、昨年3月に作成した部会報告書の中で、SDGsを座標軸にして施策を検証していく、あるいは評価していくということが報告されています。SDGsも本格化してきており、このような形で進めてまいりますので、我々としてもSDGsを座標軸にして施策を評価していくことが必要であると考えています。これまでの評価の方法に関しては、総合評価、いわゆる数値目標だけではなく、これまでの県の取組み状況、社会環境の変化、全国的な数値データなども含めて県で1次評価を行い、2次評価を審議会で行っていただくというやり方を取ってまいりました。第3期実施計画においてもそういうやり方をするようになると思いますが、今年の秋には、どのように評価をしていくのかということを審議いただく予定です。その際にはSDGsをどのような形で評価に活用していくのかも当然ご議論していただくことになろうかと思います。次に予算の関係でございますが、今回、4年間の予算規模を4,800億円程度ということで整理させていただき、主要施策・計画推進編に掲載し、毎年の評価の際にどの程度予算化したかというような評価をさせていただいているところです。また、プロジェクト編の147ページに、審議会のご議論を踏まえて財政状況等を勘案した自治体経営のあり方というような表記をさせていただいたところで、我々も予算があつての政策展開ということで、その部分を十分承知して行っているということで、記載を加えさせてもらっています。
- **小林委員**：Tableau（タブロー）社の回し者ではありませんが、今回、このシステムを入れようとしているところですが、クロスさせるときに、昔は70ページ、71ページにあるように、定量的な関係で評価してきたところですが、3つや4つの指標を組み込んで分析することができます。あちらを立てればこちらを立てずというような状況が結構生まれてくるのですが、それが3つや4つの指標を重ねたときに、どういう結果になっているのかということ、表現するツールがもう既にSociety5.0に注目していくと、結構見えてきます。行政であると、リーサスというシステムがありますが、そうしたものを積極的に活用するとかなり正しい評価に近づくのではないかと思いますので、ご配慮いただきながら進めていただければと思います。
- **清家会長**：それでは、それ以外にご意見はございますか。
- **河野委員**：前回、欠席をさせていただき、申し訳ございません。非常に分かりやすく丁寧な計画書であるという印象でございます。私からは1点ございまして、58、59ページのプロジェクト20「協働連携」の記述について、少し気になることがございます。社会的な課題を解決していくということが重要になってきておりますが、その実現には多様な主体が連携しながら行っていけないと難しい時代になってきています。そうした中で、ここでは主にNPOに注目した記載となっているように見受けられるところが気になる点です。県と企業、大学との連携事業の記載は確かにみられますが、もう少しより広い産学官連携や、小規模でも大学と商店街との連携、観光絡みのプロジェクトで行われてきた連携など、これまでも県の中で行われてきた連携、更にはそれを越えて行おうとしている新たな連携など、多様な連携があるかと思

ます。県としての役割には、プラットフォームとして多様な主体をまとめ上げていくことがあると思いますので、協働連携のところに、そのことをより強く書いていただいた方が良いのではないかと考えます。より広範囲に周囲との関係を構築し、力を入れて、これらの連携を進めていこうとする姿勢が強く伝わってくるかと思います。

○ 清家会長：ありがとうございました。事務局からいかがでしょうか。

○ 池田政策部長：NPOを中心に書いているのではないかということで、もう少し産学など様々な団体との在り方などについても記載すべきではないかというご意見と承りました。例えば、5ページに「計画策定の主な背景」というところで柱ごとに記載していますが、「5 まちづくりをとりまく状況」のところにも、多少ではございますが、NPO、企業、大学など多様な主体との連携について記載しています。この背景といたしましては、今後も増加が見込まれる外国籍県民等にとってしやすい環境づくりが求められていることがあります。多様化する課題解決に当たっては、いわゆるNPO等の団体にもお願いするというので、NPOとはNPO法人だけではなく様々な団体を含んでいるということをページの下の方に注釈で記載させていただいているところです。ご意見がありましたところについては、反映できるかどうかも含めて検討させていただきます。ありがとうございます。

○ 清家会長：丸山委員お願いします。

○ 丸山委員：2つあります。各プロジェクトは右と左で1つのプロジェクトになっています。人間が見たときに必ず見るところは左上なので、そこに写真が掲載されていることはすごく良いと思います。その写真がプロジェクトを表しているということで写真を採用されているのだと思われます。例えば、32・33ページのプロジェクト9「減災～災害に強いかながわ～」で言えば、具体的な取組みとして「自助・共助の取組みの促進」「災害対応力の強化」「災害に強いまちづくり」ということで、ビッグレスキューでの写真や総合防災センターでの防災教育の写真があるというのは分かります。次のプロジェクト10の「治安」についても分かります。36・37ページのプロジェクト11「安心～日常生活における安心の実現～」については、もう少し写真を探して欲しいと思います。「犯罪などの起きにくい地域社会づくり」「犯罪被害者などへの支援」「消費者トラブルへの対応と未然防止に向けた取組み」という柱があり、そのような問題意識があるのだなと見たときに、「成年年齢引下げへの対応啓発資料」というのは分かりますが、いわゆる1日警察署長の写真。この取組みを否定するわけではありませんが、写真を選択する際に、もう少し他にあるのではないかと思います。それから2つ目です。SDGsについて、見せ方や分析の仕方などいろいろご意見が出ていて、最善の方法というのは現在進行形で発達しているところもあるだろうし、相互関連性があるものをどのように見せていくのかというのは難しいと思います。2ページの策定に当たってというところの「2 計画の性格と役割」というところに「県民総力戦により協働して取組みを進めます」と書いてあります。それとの関係で言うと、70・71ページの「かながわグランドデザインのプロジェクト」の表で、医療とエネルギー、農林水産、減災、治安で「ゴール17 パートナリーシップで目標を達成しよう」に○が付いていませんが、○を付けない理由もないのではないかという気がします。私としては、○を付けてもよいのではないかと思います。ご検討いただければと思います。

○ 清家会長：それでは、これらの点についてご検討いただくということでよろしいでしょうか。続いて、中村委員どうぞ。

○ 中村委員：ご説明ありがとうございました。SDGsの視点を取り入れたことは良いことだと思います。この中で、「『いのち輝くマグネット神奈川』の取組みと軌を一にする」とありますが、全く同じなのであれば取り入れる必要はないと思います。何を言いたいかと言いますと、この考え方を取り入れることで、

これまで神奈川県ではこの部分が足りなかった、もう少し頑張る必要があると見えてきて、それを政策に反映していくことができれば、SDG sを取り入れて良かったという結論になると思います。SDG sの視点を取り入れて気づいたことがあれば教えてください。

- **池田政策部長**：SDG sは始まったところであって、組織再編でSDG s推進課をつくり、これから本格的にやっっていこうというところですよ。また、SDG s未来都市、自治体SDG sモデル事業の2つに、都道府県で唯一選定されて、これから進めていくというところがございます。気が付いた点ということでは、70ページから71ページの星取表の中で、星が少ないところがあるということだろうと思います。この星取表は、本来であればほとんど〇が付くということになってしまうのですが、それではあまり意味がないと考え、直接関係あるところに〇を付けたところがございます。ご覧いただくと、ジェンダー平等の実現や海の豊かさの関係のところと比較的少ないとか、そういったこともあってプラスチックごみ対策の事業展開やジェンダーの充実を図っていくというような政策を第3期実施計画で取り入れたところですよ。
- **柏木委員**：SDG s関連です。資料2の62ページに進行管理があります。この進行管理の中でSDG sの視点を取り入れることで、サイクルが回っていくというような書きぶりであると良いと思いました。そうしないと主要施策編はあまりSDG s関連のことが書いていないため、違和感が出てしまうかもしれないので、進行管理のところで工夫ができれば良いと思いました。それから、細かい話になりますが、29ページの林業の関係で、「かながわ認証木材の安定利用」とあります。これは施工主に直接補助金を出す手法と施行事業者に出す手法があって、神奈川は施行事業者に出すシステムなので、なかなか垢がらないという実態があるようなので、せっかく神奈川県は森林も多く、新しく森林環境保全税も入ってくるので、県下の状況を調べて、かながわ認証木材の利用が広がる工夫があればお願いしたいということ、担当課に伝えていただければと思います。
- **清家会長**：ありがとうございました。ご意見をいただきました。その他に何かございますか。
- **柳瀬委員**：先日、過去の指標・KPIの過去の実績を用意するをお願いしましたが、短時間に対応してくれてありがとうございました。政策局から見て、数値目標の妥当性については過去の数値と比較しながら検証はなされた状態なのでしょうか。
- **池田政策部長**：過去の指標等の数値については、一覧表としては公表していませんが、毎年度事業の翌年度に数値目標を審議会で評価し、その評価した結果をまとめており、その評価を踏まえて妥当な数値目標を掲げていると思っています。一部目標値は高い数値を掲げているものもあります。例えば、エネルギーの個別計画においては、国のエネルギー目標値が2030年に向けて高い数値が定まっていることから、その中で目標数値を設定しているものがあります。それは、高い目標値を掲げていかないと地球温暖化対策などが進んでこないということで、このような目標値を掲げております。高い数字目標を設定しているものもありますが、概ね妥当な目標値を設定していると考えております。
- **柳瀬委員**：安心しました。指標に関してもう1つ質問させて下さい。指標の中で県民ニーズ調査を活用していますが、2022年度の目標値が0.数%の上昇を目標としている数値目標が数件あります。県民ニーズ調査の回答者数は1,330人、信頼度は95%、誤差範囲はプラスマイナス3.8%になっておりますが、そのような状況の中で0.数%を上昇することを目標と設定することは妥当なのでしょうか。その辺を踏まえて考えをお聞かせいただきたいです。
- **池田政策部長**：県民ニーズも指標としては、場合によっては有効な指標で、我々が持っているデータの中では、県民のお考えや満足感を確認するデータとして、毎年継続的に行っているもので、意義があるも

のとして採用しているところがあります。今お話があった数%しか上がっていない、誤差の範囲内ではないかといったことについて、県民ニーズを採用しているところは、主に今最高値になっているものなどをさらに上げていこうということで、現在の傾向を、過去数年間の平均上昇率などを見ながら、数値換算をしているもので、なるべく今の状況より上げていきたい、または柳瀬委員がおっしゃられたように、高い水準のところは維持していきたいといったデータを入れています。数値データの在り方については、議論があるかもしれませんが、我々としては、できる限りの上位の数値を出させていただいているという認識です。

○ **清家会長**：本日は、活発な議論をいただきました。特にSDG sについていろいろと議論をいただき、私も勉強になりました。SDG sとは、逆算してのバックキャスティングといったお話もありましたが、遠い将来にどのような社会があるべきかというゴールに到達するために、今から何をすべきか、といったことを考える手法で、政策を考える上では有用なものだと思います。ただ、ご承知のとおり、これは国連において世界各国で起きているいろいろな問題を解決するために、今これだけたくさんのゴールがあるということで、そのうちのどれが、日本の、とりわけ神奈川県で重要かといったこともあるかと思えます。したがって、これがすべて埋まっていないといけないであるといったことではなく、むしろ、この中で特に神奈川県にとって大切なものは何か、それにどう対応していくのかといったことを考えて、進めていくのかなと思っています。もう一つは、ゴールズと言っていることの意味です。最近よく”from rule to goals”という言い方をされるようですが、つまり天降り式に、トップダウンでこうしよう、ああしようということではなく、むしろゴールを決めておいて、そのゴールに行くためにみんなで考えましょう、いろいろな主体がそのゴールに向かって自ら考えて進んでいきましょう、といった考え方だと思います。もちろんこれは県の計画ですから、県がそのためにこうしようと考えているということが書かれていると思いますが、SDG sの精神を更に踏まえるとすれば、もちろん行政の役割は重要ですが、むしろそれぞれの主体がゴールに向かってどのように進んでいくか。また、ゴールというのはかなり遠いところにありますから、その途中でいろいろと状況も変わっていきますので、今ゴールに進むための方向を決めても途中で変わってくるかもしれない。それはそれでよいというような、そういった柔軟な考え方があった方がよいのかなと思います。部会等でも議論していただいたと思いますが、そういう柔らかな考え方も計画に反映されており、うれしく思います。それでは、いろいろなご意見をいただきましたので、そして、いただいたご意見をできるだけ反映していただくということで、本日の審議会において、実施計画（案）について了承するというところでよろしいでしょうか。

○ 一同：（異議なし）

○ **清家会長**：では、そのようにさせていただきます。また、先ほども申しましたように、これから修正すべき点については修正いたしますので、そういった点も含めて、文言については、会長にご一任いただくということでよろしいでしょうか。

○ 一同：（異議なし）

○ **清家会長**：それでは、そのようにさせていただきます。本日の議題は以上ですが、事務局から何か連絡事項はございますか。

○ **高澤政策局長**：熱心にご議論をいただきましてありがとうございます。最後に会長にまとめていただいたように、SDG sを中心に様々な点についてご議論をいただきました。先ほどのご指摘の中にもありましたが、前回のグランドデザインにはなかったSDG sの視点を今回は入れさせていただきました。私は、6月にこの所属に着任したばかりですが、自分なりに感じていますのは、SDG sというものを加え



ることによって、大事なことは、「バランス」と「総合力」なのではないか考えています。今、若者の間では、SDGsのカードゲームというものがあり、勝負をするときには、社会、経済、環境がひとつだけ突出していても負けてしまいます。やはりバランスを取って、3つの要素をきっちりこなして、そこで初めて成果が出るというゲームです。SDGsの本質はそこにあるのではないかと思います。多様な問題が出てきています。先ほど委員の皆様からもありましたが、どこに位置付けるのが一番良いかという非常に悩ましい問題があり、ここに位置付けたからそれで終わりではなくて、いろいろな部分に影響していくのだと思っています。本日いただいたご意見については、それをなるべく計画の中に反映してまいりたいと思いますが、今後の評価の中で、それぞれのぶつ切りのKPIや指標が達成できたらよしとするのか、それとも相互にちゃんとバランスがとれているのか、総合力を発揮できたのか、そういうところを併せて、評価の仕方についても今後皆様方からご意見をいただいてまとめていきたいと考えています。併せまして、計画は、作れば終わりというのではなくて、これをいかにして執行して成果をあげていくか、そして、恩恵、メリットは最終的には県民が享受すべきものと考えています。そういったところに全力を尽くさせていただいて、計画づくり、そして計画の執行、最終的には評価、そしてまたそれをPDCAで回していく、そういうふうに進めてさせていただければと考えています。本日で、第3期実施計画に関する総合計画審議会は最後になりますが、今後、これを県議会の常任委員会の方でもご議論をいただき、成案に結びつけていければと考えています。また、来月の審議会では、総合計画審議会からの答申案についてご審議をお願いしたいと考えております。今後ご指導のほど、よろしくお願いたします。

- **清家会長**：それでは、以上を持ちまして、本日の審議会を閉会いたします。本日は熱心なご審議、ありがとうございました。